

『万平出し』とトロッコ

桜木公民館長 岡戸 博

平日は静かな万平公園、残された旧桜土手に、毎年、見事な花をつける桜の古木に隠れるように『竹井澹如』の偉業を称える板碑がある。

板碑によれば、竹井澹如は明治二年に、洪水の被害を防ぐため私財を投じて、熊谷堤の修築と桜を植樹し、旧堤から荒川に向かって突堤『万平出し』を築いている。また、川岸の地盤を強化し、洪水時に流れの威勢を弱めるため桑畑を開拓した。この事は地域の養蚕業の振興にもなった。

本名を竹井万平と称し、澹如は号である。明治十二年、初代の埼玉県議会議長に就任し、上述の功績の他に、学校の設立、熊谷寺本堂の再建など、熊谷地方の発展に尽力し、大正八年八月七十四歳で没した。

荒川では砂利が採取され、駅の操車場近くまで運ぶトロッコがゴトゴトと走っていた。今にして思えば、河原から旧土手までトロッコの軌道として利用されていた堤防が『万平出し』である。

都市計画により、新桜堤が築かれ、澹如が開拓した桑畑や蓮畑も、万平町、桜木町の街並みに一変した。

『万平出し』も欠堤（カケト）の池も、繭検定所もトロッコも今はない。万平という名の公園や町の名と、「竹井澹如」の板碑に、僅かにその時代を忍ぶのみである。



(熊谷市公連だより 第4号 平成20年より)